

ほほえみ

第25号

2022年3月1日発行
発行 ほほえみ編集委員会



< 上 >東京 2020 パラリンピック パラバドミントン 長島理選手
< 左下 >東京 2020 オリンピック聖火リレー 赤見台中学校 貝森公美さん
< 右下 >東京 2020 パラリンピック 車いすラグビー 中町俊耶選手 (左)

もくじ

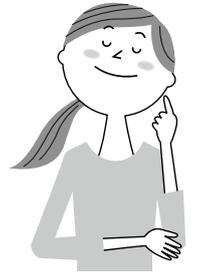
● 生理の貧困について	2
● 男女共同参画パネル展	3
● 高齢者の方困っていませんか?~民生委員の実態調査(65歳以上)を通して~	3
● ノルディックウォーキング	4
● KSK's ROCK CRAFT (ケースケズ ロック クラフト) の挑戦	5
● 鴻巣市人権・男女共同のつどい、鴻巣市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度	6
● 困ったときの相談窓口	6



「言えない」「買えない」がなくなる為には

～生理の貧困についてみんなでいっしょに考えていきませんか～

NHKクローズアップ現代+で特集された「生理の貧困」は大きな反響を呼びました。初めてこの言葉を聞いたとき、その意味を知ったとき、うまく言葉にできませんでした。そもそも「生理の貧困」とはどんなことを言うのでしょうか？



● 生理の貧困とは？

「経済的な理由などで生理用品を十分に入手できないこと」を意味します。

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンが、15歳～24歳の女性2,000人を対象に行った調査*1によると「生理用品を購入・入手することができなかつたり、ためらったこと」について、「ある」と答えた人は約35%いました。答えた人の約8割が「収入が少ないから」「生理用品が高いから」「おこづかいが少ないから」という理由をあげています。

● 生理にかかる費用は？

さまざまな調査が行われていますが、一生にかかる生理用品の金額は、20万円～40万円とされています。生理用品の他にも、生理痛の薬や下着も必要となると、費用はもっとかかります。

● 対策は？

一部の自治体や学校で、生理用品を無償提供する取組が実施されています。鴻巣市では、コロナ禍でお困りの方へ市内公共施設等で生理用品を配付しています。また、生理用品を十分に用意することが難しい児童・生徒に対しては、市内の各小中学校の保健室等で生理用品を配付しています。

● 日本では生理の話はタブー？でも今こそ話しやすい環境に！

日本では生理について公に語りたくない、恥ずかしい、という声があります。海外に比べて、タブー意識が強い傾向です。公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパンによると「生理についてオープンに話せるか」という調査*1で、日本は27か国中25位、G7諸国では最下位でした。男女にかかわらず、「女性にとって生理は当たり前の日常である」という意識を持つことが大事ではないでしょうか。

内閣府「令和3年版 男女共同参画白書」によると、2020年4月の就業者数は、その前月に比べ、男性は39万人減少していますが、女性は70万人も減少しています。また、令和2年の自殺者数を見ると、男性は前年と比べて23人減少しているのに対し、女性は935人増加しています。このことから、貧困による自殺者が増え、生きづらいつらい世の中になっていることを理解していただければと思います。

女性は、生理の期間だけではなく、その前後でも体の不調やホルモンバランスの乱れによるイライラなど精神的な辛さがあります。ドキュメンタリー番組に出演していた男性が「男子こそ、生理に関する授業を受けるべき」と話していました。女性だけの問題と思わず、男性もいっしょに考えていくことの必要さを感じました。

*1…「日本のユース女性の生理をめぐる意識調査結果」（2021年4月）公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

／コロナ禍でお困りの方へ／

生理用品を 無償配付

名前や住所は伺いません。身分証明書の提示も不要です。
既に受け取られた方でも、お困りの場合は再度お渡しします。

配付内容：生理用ナプキン1パック

配付場所：やさしさ支援課、福祉課、子育て支援課
両支所福祉グループ、鴻巣・吹上保健センター
各公民館・生涯学習センター、市社会福祉協議会
詳細は市のHPをご覧ください。



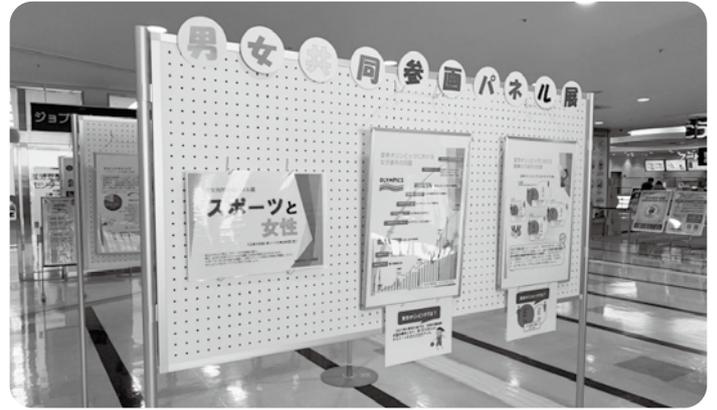
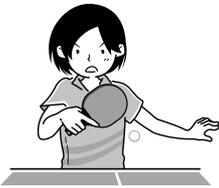
男女共同参画パネル展

～スポーツと女性～

男女共同参画パネル展「スポーツと女性」が、2021年12月16日～26日まで、市民活動センターにおいて開催されました。パネルの内容はオリンピックの歴史や女性の成長と食事の関係、スポーツ指導者の女性の割合などです。

私が注目したのは、オリンピックの歴史です。1896年アテネオリンピックは男子競技だけでした。女性の活躍の礎となったのは1994年世界女性スポーツ会議で採択された「ブライトン宣言」です。この宣言はスポーツのあらゆる分野において男女の機会均等を求めたものです。女性の社会的地位向上に伴い種目、参加者が大幅に増加し、2012年ロンドンオリンピックでは全競技で女子種目が開催されました。

アスリートで引退後もスポーツに関わりたいと希望する女性は81.4%と多くいる中で、スポーツ指導者の女性の割合は27.5%に過ぎません。



2020年夏、東京オリンピック・パラリンピックが開催される予定でした。しかし新型コロナウイルスが世界中で感染拡大し、オリンピック開催の是非が議論となりましたが、結局1年延期され無観客で開催されました。史上初めてトランスジェンダー選手として、生まれた性別とは異なるカテゴリーでオリンピック出場を果たした選手がいました。この事が「人間としての多様性」を考える契機になればと思います。

先人たちは様々な困難の中、スポーツに挑戦し続け活躍の場を拡大してきました。今を生きる私たちは多くの課題に、男性も女性も一緒に考える時なのかもしれません。

“高齢者の方 困っていませんか？”

～民生委員の実態調査（65歳以上）を通して～（実施時期 令和3年6月）



今回は、65歳以上の高齢者の具体的な相談事例、それらに対する民生委員の対応をまとめました。

ご相談

民生委員の対応

- Q1** コロナワクチンの接種はどの様にしたらいですか？ ▶ 接種券※1が届いたら民生委員に連絡を頂き、ご本人のスマホで予約の支援をしました。
- Q2** 父母が軽い認知症で将来が不安です。 ▶ 地域包括支援センターのパンフレットを持参の上、活動内容を説明し、このすオレンジダイヤル※2を紹介しました。
- Q3** 夫の通院送迎を行っているが、自分自身も膝が悪化。車の運転もままならない状態です。 ▶ 「デマンド交通ひなちゃんタクシー」※3のパンフレットを持参の上、活用を説明しました。
- Q4** 訪問の勧誘で新聞の購読を契約したが、解約したい。クーリング・オフは可能ですか。 ▶ クーリング・オフ期間内（8日間）であれば、解約が可能なため、「消費生活センター」※4へ相談するよう案内しました。
- Q5** 高齢者でひとり暮らしだが、持病があります。緊急時に助けを求めることができるか心配です。 ▶ 「緊急時通報システム」※5の申請が可能であることを説明。申請書を持参の上、「利用申請書」提出の補助を行いました。

一部活動内容を掲出しました。今後も、地域の皆様と一緒に活動してまいります。

※1…3回目の接種に関しては、接種券のみです（お知らせはがきはありません）担当：新型コロナウイルスワクチン接種推進チーム
※2…このすオレンジダイヤルでは、認知症に関する相談を「認知症地域支援推進員」がお受けします。担当：介護保険課
※3…高齢者や障がい者などの移動手段の確保及び利便性の向上を図るため、タクシーを利用して、自宅と公共施設や病院、商業施設などの共通乗降場間を安心・安全に低額で移動することができる公共交通です。担当：自治振興課

※4…消費生活センターでは、契約上のトラブル、商品の品質やサービスについての疑問や苦情、訪問販売のトラブル、架空請求、商品事故、多重債務問題など、様々な消費生活に関する相談に応じています。担当：やさしさ支援課
※5…高齢者福祉関連サービス「緊急時通報システム」の申請により、緊急通報機器を市から無料貸与します。緊急時に消防署へ通報することにより、速やかに救急活動を行います。担当：福祉課高齢者福祉担当



ノルディックウォーキングで 楽しく歩きましょう！



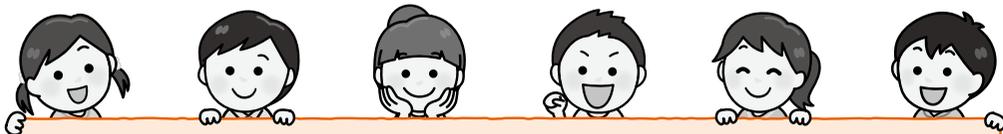
昨年6月から体力維持のために鴻巣市のスポーツ推進委員になりました。普段はスポーツなど縁が無く、なにをやっても三日坊主の自分を強制的（無理やり）に運動させるために応募したのがきっかけでした。

初めての会合に出席をして驚いたことは女性の委員が多かったことです。委員の大半が体育会系でいかつい男性と思っていたのですが、24名いる委員のうち半数は女性の方で、しかも明るく発言も積極的で男性委員を圧倒した会合に、ただただ脱帽です。サラリーマン時代には男性中心の暗いイメージの縦型社会に慣れていた私には、キラキラ光っている女性の姿が新鮮に見えました。そんな女性が活躍するスポーツ推進委員連絡協議会からお勧めのスポーツを紹介します。

鴻巣市の広報誌『かがやき』でも紹介された『ノルディックウォーキング』です。ノルディックウォーキングとはクロスカントリーの選手が、夏のトレーニングとして取り組んだポールランニングが始まりです。その後、1997年にフィンランドで初めてノルディックウォーキングが発表され、現在では日本でも盛んに行われるようになりました。具体的には、スキーで使うストックに似たポールを使って歩くものです。普通のウォーキングよりも腰やひざにかかる体重を分散し楽に歩けます。また、姿勢・歩き方がきれいになり、さらに上半身を使うためエクササイズ効果も高いものです。

そんな素敵なスポーツを市民の皆さんに知っていただくために『ノルディックウォーキング体験会』を開催しました。開催場所は川里中央公園で、昨年の7月の土曜日、天気も良く緑がきれいな日でした。参加された市民の方は、60歳代を中心に小学5年生から87歳と88歳のご夫婦と幅広く、約30名ほどでした。まずは準備体操をして身体をほぐします。そして消毒したポールを皆さんに渡し、長さの調整をしたら、ポールを使っての歩き方の練習です。スムーズに歩けるようになったら、いざスタート。10人毎の班に分かれて公園の周回コースを歩きます。資格を持ったスポーツ推進委員がサポートしながら歩けるので安心です。きれいな公園の中を気持ちよく歩けば、身体は勿論、気分も爽快です。なお、ポールは手袋をご持参いただければ無料で貸し出しています。運動不足を感じている方、足・腰が不安で運動を控えている方は是非参加してみてください。





KSK's ROCK CRAFT

(ケースズロッククラフト)の挑戦

インタビュー



弓田 祐代さん
(ケースズロッククラフト
代表)

障がい・不登校・未就学児を対象とした、完全予約・貸し切り制のボルダリングジム「ケースズロッククラフト」の「おかん」ことジム代表の弓田祐代さんにお話を伺いました。



KSKs ROCK CRAFT ホームページ
Instagram (@ksks_rock_craft)

●ジムの始めたきっかけを教えてください。

福祉の現場で学んだ知識と経験を活かし『障がいのある子ども達が思いっきり遊べる場所』を創りたいと思い、2018年に「日本初の障がい児専用ボルダリングジム」の活動を始めました。翌年、鴻巣市子育て支援ネットワークに加入し未就学児支援を開始。同年、不登校児保護者から「居場所がない」との声をうけ不登校児支援も始めました。2021年は延べ178家族522名の方が参加されています。

●ジムで大切にしていることをお聞かせください。

ジムのモットーは「家族全員で思いっきり遊ぶ」と「ボルダリング壁に向かう時は自分自身と向き合う時」です。私がお伝えしたいのは、ボルダリングの技術よりも、身体を動かす「楽しさ」とその先にある「挑戦する気持ち」です。ここで、しっかり子ども達の「生きる根っこ」を育みながら「心のバリアフリー」を地域に発信することがケースズロッククラフトの願いです。

●ボルダリングはどのようなスポーツですか？

突起物が埋め込まれた壁を自分の手足だけで登るスポーツです。体幹やバランス感覚が鍛えられ、柔軟性も高まります。また、成功体験と達成感を繰り返し得られるので「自己肯定感」が育ち、失敗しても諦めない気持ち・自分で考える力・集中力など心の成長も望めます。

●親子にどんな変化が見られますか？

ボルダリングには、登っている時に後ろから手を添え転落を防止する補助動作があります。困っている時、危ない時を見極め、瞬時に反応しなければならないこの動作をするうちに、親は自分の『思いを伝える』から、子を『見守る』に変化していきます。親の意識が変わると、子は安心して自分のやりたいことを見つけ、方法を考え、目的を達成しようと挑戦を始めます。親が先回りせずに『見守る』ことで、子の自主性が育ち、より豊かな親子関係に変化していくように感じます。

●継続して参加されているご家族の声と「おかん」の思いを聞かせてください。

「気兼ねなく家族全員で楽しめた」「シンプルに登るだけなので障がいがあっても挑戦できた」「子どもの成長をリアルに感じられ、頑張る姿に可能性を感じた」「笑顔が増え、前向きになった」などの声を頂いています。

自信を取り戻した不登校児が学校に足を向け始めたり、自閉症・ダウン症・発達障害・麻痺や欠損・全盲の子ども達が持てる力を発揮し登る姿もあります。不安なことの多い昨今ですが、ここで思いっきり身体を動かし、自分自身に挑戦し、家族で笑顔になってほしいです。

インタビューを終えて…

家族でボルダリングを体験しました。「君の身体は君が思うよりずっと大きいんだよ！」明るい笑顔で子どもに声をかけてくれるおかん。「失敗してもいい、かっこ悪くてもいい、またやってみればいい！」おかんのそんな思いが親にも伝わってきて、肩の力が抜けて家族で安心して過ごせました。「そのまんまで君はとっても素敵だよ」というおかんの言葉のまんま、我が子に対して心からそう思える自分がいました。

鴻巣市人権・男女共同のつどい

令和4年1月16日(日)、鴻巣市人権・男女共同のつどいを開催しました。新型コロナウイルス感染症に係る警戒区域アラートが発令されたため、オンライン配信のみの開催となりました。

前半は、市内中学生による人権作文の発表を行いました。後半は、フリーアナウンサーの笠井信輔さんに「テレビ災害報道の裏側と人権」と題してご講演いただきました。

視聴後のアンケートでは「無意識で見ているテレビの影に、様々な人道・人情・思いやりと報道の事実の狭間で悩み、苦悶しながらカメラを回して取材している報道関係者の真実を知り、衝撃を受けました。」

「人権問題について考える貴重な時間となりました。」との声が寄せられました。



鴻巣市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度を開始しました!

令和2年12月1日に開始した「鴻巣市パートナーシップ宣誓制度」が令和3年12月1日より「鴻巣市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」として新たにスタートしました!

この制度は、お互いを人生のパートナーとする2人が、日常生活において相互に協力し合うことを約束した関係(パートナーシップ)を結んでいることを市に宣誓できる制度です。

また、宣誓する方と一緒に暮らしている子ども(未成年)がいる場合、家族として生活を共にすることを併せて宣誓することができます。



詳細は市のホームページをご覧ください。



困ったときの相談窓口 ひとりで悩まず、相談してください

相談内容	相談機関	電話番号	受付時間等
DV(ドメスティック・バイオレンス)に関する相談	埼玉県婦人相談センター	ほれれば #8008 または 048-863-6060	月~土 9:30~20:30 日・祝日 9:30~17:00 (年末年始を除く)
	鴻巣市やさしさ支援課	048-541-9018	月~金 8:30~17:15 (祝日・年末年始を除く)
	内閣府「DV相談+(プラス)」	0120-279-889	毎日24時間受付(電話・メール) ※令和4年2月15日時点
生き方、家族、夫婦、DV、人間関係などの相談	埼玉県男女共同参画推進センター「With You さいたま」	048-600-3800	月~土 10:00~20:30 (祝日・年末年始・第3木曜日を除く)
男性のための電話相談		048-601-2175	毎月第3日曜日 11:00~15:00
性的マイノリティに関する悩み事相談	鴻巣市やさしさ支援課	048-541-9018	毎月第1、第4木曜日 14:00~15:00(予約優先)

(注意) 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、相談の実施内容に変更が生じる場合があります。



男女共同参画情報誌「ほほえみ」
第25号 2022年3月1日発行

発行 ほほえみ編集委員会
編集委員 上谷早苗、小池真奈美、知野龍三
橋本 円、岡田久夫、青野君江

ご意見・ご感想はやさしさ支援課までお寄せください。

鴻巣市やさしさ支援課

✉ yasasisa@city.kounosu.saitama.jp



KONOSU CITY
鴻巣市

〒365-8601 鴻巣市中央1-1
☎048-541-1321
<https://www.city.kounosu.saitama.jp/>